

## 提 案 書

提案名 (25字以内)	自転車でみなとみらいを遊ぼう！ (ポタリングツアーと子ども自転車ゲーム)
グループ名 (25字以内)	NPO 法人横浜カーフリーデー実行委員会

【1】提案グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績、またグループの紹介を記入してください。

当団体は横浜が自動車の優先される街から、歩行者・自転車・公共交通など人や環境にやさしい交通が優先される街への転換を目指し市民への啓発活動を行っています。

毎年9月に約2,000都市で世界的に行われる交通政策イベントの「モビリティウィーク&カーフリーデー」、および交通・まちづくりに関する講演会(不定期)などを実施しています。

＜活動実績＞各活動への参加者数

カーフリーデー：2012年 約15,000名、2013~2015年 毎年 約20,000名

シンポジウム：2013年「安全で快適な自転車利用環境」45名、2015年「LRT最新事情」24名、2016年「人と環境に優しい公共交通」41名「自転車と共存する安全安心な街づくり」50名

ホームページ <http://www.ycfd.jp>

【2】助成を受けて行う活動の年間計画を記入してください。

月	内 容
4月	実行委員会の実施 (イベント実施内容詳細の検討)
5月	実行委員会の実施 (イベント実施内容詳細の検討)
6月	実行委員会の実施 (イベント実施内容詳細の決定)
7月	実行委員会の実施 (イベントの広報)
8月	実行委員会の実施 (イベントの広報・準備)
9月	実行委員会の実施、イベントの準備 <b>9/17 イベント実施、9/23 横浜カーフリーデー実施</b>
10月	実行委員会の実施 (反省会)
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

【3】助成を受けて行う活動の内容について、次の項目に沿って記入してください。

(1)活動の内容

以下、2つの活動を人の多い場所で実施することで、参加者を含む多くの方への活動趣旨や団体の活動理念（車から人や環境にやさしい交通へ・車以外の交通手段利用環境の向上への寄与）の周知を狙う。

①みなとみらいポタリングツアー

横浜のコミュニティサイクル「ベイバイク」を利用したポタリングツアー。ベイバイクの利用促進、自転車でのみなとみらいの楽しみ方の提示をすると共に、ツアー出発前に自転車の安全な乗り方の講習も行うことで自転車の正しい乗り方も身につけてもらう。

②子ども自転車ゲーム

これまでの手法とは異なり、幼児期から楽しんで遊びながら自転車の乗り方を学ぶ子ども自転車教室。運動能力の向上と共に社会性も身につけられるような内容となっている。

(2)活動の主催者及び参加者

主催者：NPO 法人横浜カーフリーデー実行委員会、参加者：横浜市民、および来街者

(3)活動を実現するための方法

団体 HP・SNS、新聞・地域広報誌、観光案内所やベイバイクポート、地区周辺の幼稚園（横浜みなとみらい保育園、モナーク インターナショナルプリスクール等）等で広報し、参加者を募る。また、開催時期が本活動と重なる「横浜トリエンナーレ」を応援するプロジェクトとして連携する予定。

横浜都心部コミュニティサイクル（ベイバイク）事業を行う都市整備局都市交通課や交通・運輸業界の総合専門紙である交通新聞社からの後援・協力をいただき実施する。

(4)時期 2017年9月17日（日）

(5)場所 グランモール公園（ポタリングツアー出発・到着地・自転車安全講習、子ども自転車ゲーム）

(6)当地区で活動を行う理由

「環境未来都市」に選定された横浜は、環境問題や超高齢化への対応、国際都市として経済の活性化を目指しており、環境負荷が少なく、高齢者・来街者など誰にとっても便利な移動環境整備は不可欠である。また都心部活性化、観光振興、低炭素化への寄与を目的とするベイバイク事業はみなとみらいを中心に横浜の都心部で展開している。そのため、ベイバイク利用者、設置台数・ポート数の増加、さらなる自転車利用環境の向上を目指し当該地区での活動を行う。

(7)エリアマネジメントの効果（活動を行うことによる当地区への効果）

・「自転車で MM21 を楽しむ」の提示。それは自転車や公共交通の利用を想定しており、自動車よりも多くの集客を見込むことができる。\*右写真：交通手段別に、70人の移動に必要な空間の大きさを比較。

・ベイバイク利用登録、利便性を実感してもらい、継続して当該地区を来訪・周遊してもらう。

・MM21 が子どもにとっての「楽しい思い出の場所」になり、大人達にも「みんなが笑顔になる楽しい場所」、にぎわい創出と共に交通安全、環境問題にも高い意識を持つと PR。毎年のイベントとして、継続的に活動を実施することで、上記イメージを定着してもらう。



自動車 54台 自転車 70台 バス 1台

© 株式会社モーターサイクル推進協議会、株式会社、一般社団法人カーフリーデージャパン

・MM21 が子どもにとっての「楽しい思い出の場所」になり、大人達にも「みんなが笑顔になる楽しい場所」、にぎわい創出と共に交通安全、環境問題にも高い意識を持つと PR。毎年のイベントとして、継続的に活動を実施することで、上記イメージを定着してもらう。

(8)その他、特徴やアピールする点

実施に際し、ツアールートと共に自転車レーンの整備区間、またベイバイクポートやシーバスなど交通乗り換え地点をおとしたマップ配布資料を作成、横浜カーフリーデーなどでも配布をする。

## 収 支 予 算 書

グループ名           NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会          

1 収入（自己資金や他の助成金などを記入してください。）

項 目	金 額	説 明（負担者及び負担方法等）
助成金（A）	500,000	
参加協力金	40,000	ポタリング：1,000円×20人=20,000円 自転車ゲーム：500円×40人=20,000円
寄付金・協賛金	188,000	
合 計（B）	728,000	（B） ≥ （C）

2 支出（助成金対象経費分）

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
印刷費	1式	-	70,000	チラシ、パンフレット、 パネル
講師謝金	1人	-	10,000	ツアーガイド
アルバイト人件費	4人	10,000	40,000	当日スタッフ
会場使用料	1式	-	4,000	-
ボランティア活動保険	1式	-	15,000	-
イベント保険	1式	-	12,000	-
会場設営費	1式	-	193,000	テント、テーブル、カラ ーコーンなど
子ども自転車ゲーム 備品	1式	-	46,000	ビブス、電動しゃぼん 玉、ミニコーンなど
自転車、ヘルメット など	1式	-	338,000	自転車レンタル費、ヘル メット等購入費
合 計（C）	/	/	728,000	【みなとコース】(C) ≥ (A) 【みらいコース】(C) ×4/5 ≥ (A)



# ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデー

## European Mobility Week & Car Free Day

ヨーロッパでは、毎年9月16～22日に「ヨーロッパモビリティウィーク」という社会的なイベントが行われています。

環境問題を都市交通の面から対処していくため、また街に人中心の賑わいを創り出していくため、「車の使い方」を見直そうというものです。街本来のあり方を社会啓発し、クルマ優先社会からの価値観の転換に向けた取組で、カーフリーデーはこのプロジェクトの中心イベントとなっています。

### ヨーロッパモビリティウィークとは？

2002年から実施されているカーフリーデーを発展させた欧州委員会(環境総局)のプロジェクトです。カーフリーデーの前一週間を都市交通を考える交通週間として位置づけ、新しい交通施策を展開する機会となっています。

毎年決められるテーマに従い、まる一週間、公共交通機関・自転車・生活道路・緑の道等を考える催しが日替わりで行われます。



### カーフリーデー "In town, without my car!" とは？

1997年にフランス、ラ・ロッシュェルで行われた「車のない日」が発端となっている、車と都市・車と地球環境・車と都市文化を考える1日です。街では車に頼らなくても日常生活には支障がないことを実感してもらうために、都心部において1日マイカーを使わない地区を創り出し、市民一人一人が車のない都市環境を体験しその変化を実感します。1998年からフランス、2000年からはEUのプロジェクトになりました。ノーマイカーデーや歩行者天国とは、実施目的や内容が異なるものです。

ねらい

大気汚染の問題を認識する  
公共交通を推進し強化する

人や自転車の空間を優先する  
地域の資産を再認識する

### ■具体的実施内容

モビリティウィークの中心イベント「カーフリーデー」では、朝から夕方まで、普段は車に占拠されている都心部の特定地区内へのマイカーの進入を規制し、自転車・公共交通と共にもっぱら歩行者のための都市空間の1日を創り出します。マイカーに頼らなくてもその移動を制約されることがないように、公共交通の増便（その運賃は通常よりも安いか無料）やシャトル便で連絡される駐車場の確保、相乗りの促進、レンタル自転車などが設置されます。

環境について考えるキャンペーンや展示会なども様々な団体が参加して行われ、新しい交通施策の導入の場ともなっています。



### ■日本での取組み

日本では、2004年に横浜市・松本市・名古屋市の団体が支援都市として参加して以来、その目的や趣旨に賛同する団体が少しずつ増え始めています。

日本においても、車優先社会の見直しが必要であり、深刻化する中心市街地の衰退への対応策としても、車と地球環境・都市生活のあり方を考えていきたいと思えます。



### ■世界での取組みと経緯

実施年	プロジェクト名称	参加都市数				備考
		モビリティウィーク		カーフリーデー		
		正式参加	支援参加	正式参加	支援参加	
1997	車のない日	-	-	1	-	ラ・ロッシュェル(仏)
1998	街では車を使わない日	-	-	34	-	フランス34都市
1999	街では車を使わない日	-	-	164	-	仏以外：イタリア92、ジュネーブ1
2000	カーフリーデー	-	-	758	504	EUプロジェクトとして世界に広まる
2001	"	-	-	996	481	EU以外の他都市が参加
2002	ヨーロッパモビリティウィーク & カーフリーデー	320	111	1426	316	ヨーロッパモビリティウィークの開始
2003	"	295	428	1035	453	アジアからも参加(台湾)
2004	"	377	472	1155	240	仏では従来の慣習化を担う取組に変化、日本から支援都市3市が参加。
2005	"	343	497	1108	344	仏「Bougez Actement(これまでと異なる交通行動を)」に方向転換、施策の慣習化を前提とする交通週間へ、日本から支援都市3市参加。
2006	"			1321	1311	日本から支援都市3市が参加。
2007	"			2020		日本から6市が参加。
2008	"			2021		日本から7市が参加。
2009	"			2181		日本から9市が参加。
2010	"			2221		日本から9市が参加。
2011	"			2268		日本から8市が参加。アメリカ合衆国初参加。
2012	"			2157		日本から10市が参加。トルコ共和国初参加。
2013	"			1931		日本から13市が参加。ベトナム、ロシア、アンドラ初参加。
2014	"			2013		日本から11市が参加。マルタ共和国初参加。
2015	"			1873		日本から10市が参加。ベラルーシ共和国初参加。

2007年からは、正式参加→「本格参加 Golden participants」、支援都市→「参加都市 Participants」となりました。

【ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーの普及活動のため、企業協賛を募集しています】

連絡先：一般社団法人カーフリーデージャパン(ヨーロッパモビリティウィーク日本担当コーディネーター 望月真一)

Email: carfreedayjapan@cfjapan.org URL: www.cfjapan.org www.facebook.com/CarFreeDayJAPAN

〒102-0085千代田区六番町6-20-304 Tel\_03-3234-1765 Fax\_03-3234-1748





## 「自転車でみなとみらいを遊ぼう！」実施内容

### ① みなとみらいポタリングツアー



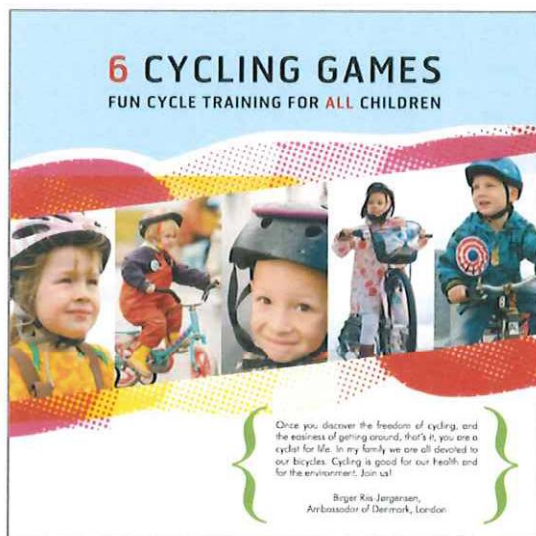
(写真 左：wikipedia「ポタリング」、右：自転車レーンとみなとみらい 21 地区)

ベイバイクを利用し、みなとみらい周辺をポタリング（自転車での散歩）する。赤レンガ倉庫や象の鼻で横浜三塔を眺め写真撮影、MM21 ならではのスイーツや買い物を楽しむ。

参加者は会場にて受付をした後、ベイバイク利用が初めての方には利用登録（登録方法がわからない方にはスタッフが説明）を行う。ツアー出発前には自転車乗り方教室（約 15 分）を実施する。

- 所要時間：約 2 時間、午前と午後の各 1 回実施
- 定 員：各 10 名（合計 20 名、要予約）
- 対 象：ベイバイク利用対象者、高校生以上
- 想定ルート：約 4km（カメラ女子、スイーツ男子などをターゲットとして想定）  
出発→国際橋→赤レンガ倉庫→象の鼻→日本大通り→万国橋→国際大通り：MM21 を眺めつつ会場へ

### ② 子ども自転車ゲーム



(図：子ども自転車ゲーム リーフレット表紙、デンマーク大使館 作成)

子どもが遊びながら自転車の乗り方を学ぶ活動（デンマークでの手法：いくつかの幼稚園では教育課程に組み込み、毎週実施）。日本の一般的な自転車交通安全教室は小学 3 年生を対象に自転車の交通ルールを学ぶが、本活動は幼児を対象に交通安全を学ぶ前の基礎として自転車の安全について遊びながら楽しく学んでもらう。

内容はオリジナルの 6 種目の中から「ボール集め、シャボン玉つかみ、障害物コース」の 3 つを実施予定。使用するカラフルな道具などには、「みなとみらい」らしさを加え、参加しても見ても楽しいイベントとする。

- 所要時間：3 種のゲームを休憩をはさみ約 1 時間、2 セット実施
- 定 員：合計 40 名程度（予約優先、当日参加可・受付必須）
- 対 象：2～5 才、保護者同伴
- 子どもの時から自転車に慣れ親しむことで、習慣づけになる。いきなり危険な公道を走って 1 度転ぶよりも、安全が確保された遊び場でたくさん転ぶという考え方。（転倒の許容）

#### 【実施に際して】

- ・ 安全第一に実施。いずれの活動も予想外の事故などが起こらないよう、あらゆる事態を想定し企画・運営する。また、ツアーについては類似の活動実績のある秋山友志氏の協力を得る。
- ・ 参加者は（保険料を含む参加協力金をいただき）イベント保険への加入を必須とする。
- ・ 雨天時にはツアーは日程の延期、子ども自転車ゲームは屋内（近隣商業施設内）での実施とする。